

21種類の学習カードで 探究型授業をデザイン

New Education Expoが東京で6月1～3日に、大阪で6月16・17日に開催される。稲垣忠教授(東北学院大学)は東京会場初日のワークショップ「学習の基盤となる情報活用能力の育成に向けて」学習活動カードで『どのように学ぶか』をデザインする探究型單元づくり講座(15時40分)を担当。「学習活動カード」で探究型の單元をデザインし「思考と表現のルーブリック」で深い学びを保障するという。

東北学院大学
稲垣 忠教授



次期学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」を実現するために單元を見通した授業作りに注目が集まっている。学習活動を深めるには、子供の探究

の質を高める必要があり、そのための学習の基盤として情報活用能力の育成が求められている。

しかしさまざまな教科を横断して育成する方策は確立されていない。

そこで稲垣教授は、情報活用能力の評価基準(ルーブリック)の基となる「メタ・ルーブリック」(メタ・高次の)が必要であると考えた。まず、情報活用能力を



学習活動を見える化してループリック作り

21種類の学習活動に対応したカードを作成し、教員研修を行ったところ、子供の視点に立った探究活動を迅速に構築しやすくなったという。

「深い学び」を実現するには、情報活用能力とともに、教科の見方・考え方を捉えることが重要となる。そこで、稲垣教授は探究活動の成果物に対して中身(思考)と伝え方(表現)の2観点からなる「思考×表現ルー

組み合わせて探究型の單元を開発する教員研修プログラムを開発した。「単元の見通しを持つところまでであれば、15分程度で可能」と稲垣氏は語る。

21種類の学習活動 4分類してカード化

カードでは、21種類の学習活動を「収集」「編集(整理・分析)」「発信」「探究」の4つに分類。それぞれに具体的な活動が記載され

映像・観察/実験・表グラフ・体験の8つ、「編集(整理・分析)」「カードには、思考活動を「集約・比較・論理・関連付け」の4種類の学習活動に集約。

さらに、各カードにそれぞれの学習活動で必要な検討事項「どんな本?」「どう記録?」「誰に聞く?」「検索キーワード?」などを記入する枠を設けた。

これをどのように活用するのか。まず、「地域の人のつながりを豊かにするアイデアを町内会長に提案しよう」「ホームステイの際に日本を紹介するプレゼンを作ろう」など單元を通して児童生徒が活動

するゴールを決める。カード項目に沿って収集・編集・発表の骨組みをひくと通り考える。何を使っ

教員研修に活用

今夏、稲垣氏は「情報活用能力育成」や「21世紀型スキル育成」をテーマにした教員研修を宮城県、石川県、岡山県、千葉県、鳥取県など各教育委員会で開催を予定している。いずれも学習活動カードを活用する。

單元づくりおよびカリキュラムマネジメントに本カードを活用している仙台市立錦ヶ丘小学校では、公開授業を7月7日に実施。同校は10月に仙

台市で開催される視聴覚教育総合全国大会・放送教育研究会全国大会でも授業を公開する。

単元の見通し15分間で可能に

育成する学習活動を整理。最終的に21種類の学習活動に分類(後述)し、これらに初級者から熟達

を設定。「学びの質ルーブリック」と名付け、A3用紙1枚で情報活用能力の系統を見渡せるようにした。さらに、これら

「学びの質ルーブリック」の作成を提案している。

例えば「収集」カードには、収集する手段の種類「図書・Web・アンケート・インタビュー・